

中央アルプス

2000年10月14日～15日

正沢川細尾沢

松原憲彦(北大山の会)

10月14日(快晴後曇り) 御嶽はもちろんの事、槍穂も望める秋晴れの下ドライブを楽しみ、幸の川橋まで。茶臼山への登山道利用で壊れた釣り橋から11時入溪。晴れ渡る空、盛りの紅葉、澄み切った水、白い花崗岩、気分は上々のゴーロ歩き。玉ノ窪沢出合いで昼寝。細尾沢出合いまで、膝下を濡らす程度で取り立てて何もないが、ゴーロが続き何処でも泊まれる感じではない。豊富な薪で顔が焼ける程の焚き火をひとり楽しむ。飲んでると、星空にまあいお月さんが昇る。月明かりで散歩できる。

10月15日(曇り後時々みぞれ) 空模様は予想に反して曇天。この時期に日射のない溯溪はちとつらい。整ったナメ滝を越え、ゴーロ歩きで体を温めていると、水の束が高くから落下しているのが早々と見えてくる。35m程の真っすぐな大滝で、潔く巻きにかかる。ものの本では右岸を巻くとあるが、これは明らかに左岸の方が楽チンだ。この滝の上にはもう一段あって、その落ち口は岩盤の溝となっている。ここより上部は、晴れてりゃすこぶる気持ち良さげなナメ滝が延々と続く。溯行図で滝を区切るのが阿呆らしくなってくる、そんなナメ滝の連続。細尾沢のカールは灌木の多い所で、日高山脈のそれを想像して行くとちょっとガッカリする。灌木のトラバースをして、右上に見える白いガレから稜線を目指す。ガレを這っているところから風が出て、みぞれが頬を叩く。お地藏さんと御対面した所が稜線で、風によるめきつつ2分で木曾駒ヶ岳の山頂へ。御嶽は実に大らかな山だ。槍穂が見えるくせに空木が見えぬ。福島Bコースをのんびりと下山。栈道や巨岩、湧き水などがあって、割りと楽しい道だ。帰路立ち寄った「駒の湯」は、中々好ましい温泉でした。(松原憲彦)

タイム 10月14日 入溪11:00—細尾沢出合B P 14:00 / 15日 出発8:30—木曾駒ヶ岳 12:00～13:00—登山口着15:30

地図 木曾駒ヶ岳

グレード 2級